令和６年度

穴吹小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

自主性・協働性の育成を目的とした「話合い活動」の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
古川　武	校長：曽我部 修司　教頭：國原 勝寿　研修主任：林 礼子 藤川 愛　伊良原 理沙　原 友里江　大塚 真理子 大塚 優　岩田 麻希　藤田 俊明　櫻間 なつこ　北村 恵子

校長

曽我部　修司

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や研究授業、教員からの報告や調査など様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

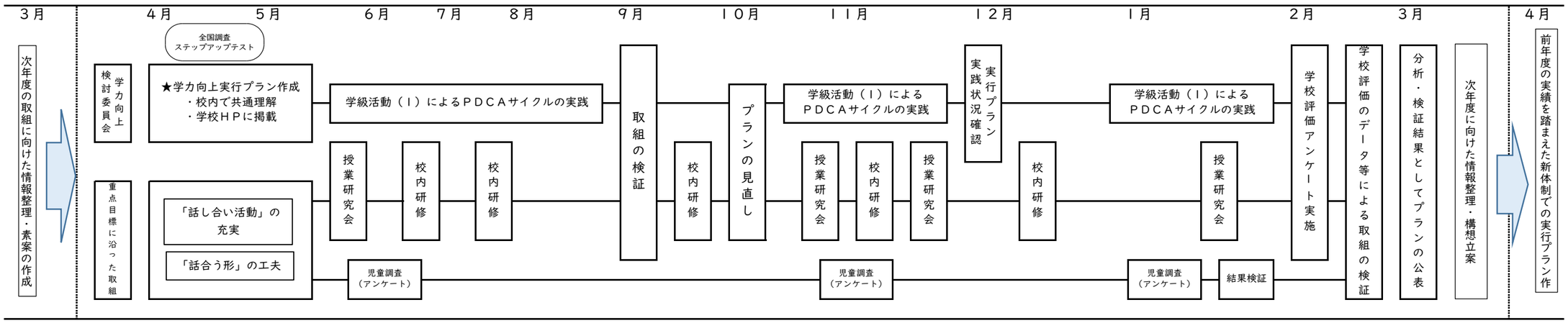
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇教師の指示を聞いて、行動できる。 〇話型があれば、ある程度話すことができる。 ●授業中に友達の話を深く聞くことができていない。 ●語彙数が少なく、話すことの苦手な児童が多い。	相手の話を深く聴き、自分の伝えたいことを話すことできる。	・児童どうしの対話の必要性を高めるために、教師の発言を減らす。 （聴くスキル） ・学年に応じた話型指導を実践する。 （話すスキル） ・トークトレーニングの実施。 （話す・聴くスキル）	・児童どうしの対話に必要に応じて教師が介入し、ファシリテートする。 ・児童が思いや考えを話しやすいように、児童の聴くスキルを教師の助言等により高めていく。	・学級活動（１）では、教師の発言を減らすことで、児童どうしの話合いが活性化した。しかし、他教科には、生かすことができなかった。 ・トークトレーニングを実施することで、互いのことをよく知ることができ、話しやすい雰囲気をつくることができた。 ・トークトレーニングを実施することで、途切れずに会話ができるようになった。	・他の教科に話合いのスキルが生きるように実践する。 ・話型は、掲示するのではなく、カードにし、必要な児童が活用できるようにする。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇学校生活の中で、創意工夫しながら生活を豊かにすることができる。 ●論理的に思考できる児童が少ない。 ●児童どうしの発言がつながらない。	相手と自分の考えを比較し、理由や根拠を示しながら話し合うことで、よりよい考えを生み出すことができる。	・ペアやグループワークの話合う形を工夫する。 ・各教科において、理由や根拠を示す、意見をつなげる、問い返すことができるような話合い活動の場面を頻繁に設定する。	・より教育効果が高まるように、各教科、指導内容に応じて話合う形を工夫していく。 ・各教科において、児童どうしで意見をつなげたり、問い返したりできない場面があれば、教師が問い返して発言を促したり、手本を示したりする。	・児童が各教科において、理由や根拠を示すことや問い返すことができていた。 ・各教科において、話し合う場面の設定を多くとったが、話合いが活性化しない場面が多く見られた。 ・教師が問い返すことで、話合いを広げることができていた。	・話合いを活性化するために、友達の考えを可視化して提示しておくことで、自分の考えと比較し、意見が言えるようにする。 ・思考ツールを使うことで何を考えればよいかが理解しやすくできるようにする。 →「思考ツールを活用した授業づくり」の研修を検討

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇ＩＣＴの活用に意欲的な児童が多い。 〇家庭学習の習慣が身に付いている児童が多い。 ●課題等への自分事の意識が低い。 ●自分の考えに自信が持てず、正しいかどうか気にしすぎてしまい積極性に欠ける児童が多い。	ＩＣＴを活用し、仲間と協力しながら、主体的に活動することができる。 お互いの考え方のちがいを認め合うことができる。	・ＩＣＴを積極的に活用させ、グループで協力して、成果物を作成できるようにする。 ・学級活動（１）における取組を充実させる。	・学級活動（１）では、合意形成を図るだけでなく、特別活動の３観点（自己実現・社会参画・人間関係形成）を児童が実感できるような話合いにする。	・各学年に応じてＩＣＴを活用し、意欲的に成果物を作成することができた。 ・全学年において、学級活動（１）の実践ができ、児童の主体性が発揮される取り組みができた。	・教員どうしでＩＣＴの実践について共有する。 ・今後も学級活動（１）を継続し、児童の主体性が発揮できるようにする。

令和6年度　学力向上ロードマップ